

# 景気見通し調査結果報告書

調査期間 平成30年6月

小松商工会議所

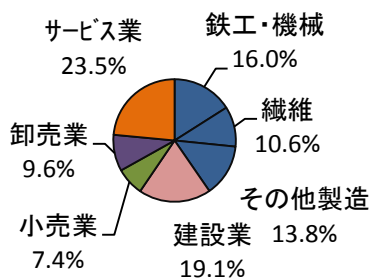
中小企業相談所

【調査対象】

小松商工会議所 議員・評議員企業 212社

回収率 94企業（回収率 44.3%）

業種	
鉄工・機械	15
繊維	10
その他製造	13
建設業	18
小売業	7
卸売業	9
サービス業(運輸6件含)	22
合計	94



景況・業況の動向

【主要な表現について】

※業況判断 …… 調査対象企業が自らの業績に下した判断

※DI 値 ……DI (デフュージョン・インデックス)とは企業の景況感を示す指数  
「好転」の割合から「悪化」の割合を差し引いた値(無回答を除く)

※前 期 ……平成 29 年度第 4 四半期(平成 30 年 1 月～3 月)

今 期 ……平成 30 年度第 1 四半期(平成 30 年 4 月～6 月、但し 6 月は見込み)

来 期 ……平成 30 年度第 2 四半期(平成 30 年 7 月～9 月)

【各項目別の DI 値の意味について】

- (1)景 況 感……………DI 値がプラスなら「好転」を、マイナスなら「悪化」を表す。
- (2)売 上 高……………DI 値がプラスなら「増加」を、マイナスなら「減少」を表す。
- (3)売上単価……………DI 値がプラスなら「上昇」を、マイナスなら「低下」を表す。
- (4)資金繰り……………DI 値がプラスなら「好転」を、マイナスなら「悪化」を表す。
- (5)採算性(経常利益) ……DI 値がプラスなら「好転」を、マイナスなら「悪化」を表す。

(1)-1 貴企業の景況感

(単位:社)

	鉄工・機械		繊維		その他製造		建設業		小売業		卸売業		サービス業	
	今期	来期	今期	来期	今期	来期	今期	来期	今期	来期	今期	来期	今期	来期
好 調	5	7	2	1	2	1	3	3	1	0	1	0	2	0
不 変	10	7	7	8	9	9	14	13	4	6	6	8	11	17
悪 化		1	1	1	2	2	1	2	2	1	2	1	9	3
無回答						1								2
総 計	15		10		13		18		7		9		22	

Q「景況・業況の動向」の項目における「景況感判断」に関する理由

受注金額ハイレベルで継続予定（鉄工・機械）
受注(売上)見込みの増加（鉄工・機械）
売上が伸びている。今後の引合いも多数あり（鉄工・機械）
受注が好調で、さらなる話も多い（鉄工・機械）
建機業界好調維持のため（鉄工・機械）
建機、自動車、工作機械等が増加、来期以降の受注が見込める（鉄工・機械）
受注見通しによる（鉄工・機械）
計画やニュースほど実感が無い（鉄工・機械）
生産量が大きく変わらないため（鉄工・機械）
エネルギーコストの上昇。一部採算の見直し（繊維）
原材料、電気燃料代の上昇などコストアップを転嫁しきれていないため、採算は悪化（繊維）
カンフル剤としての金持優遇策も効果薄、消費拡大による景気拡大は望み薄、来年秋の消費増税により前途不明、悪化模様（繊維）
2月の大雪が災いして、3～4月の売上が伸びず資金繰りに苦戦（繊維）
自動車部品の受注が増加した（その他製造業）
2月の大雪により、屋根修理が多くなり、一時的に出荷が増加した（その他製造業）
今年に入ってから可もなし不可もなしで、よく言えば安定しているといえる（その他製造業）
例年よりも受注が落ち込んでいる（その他製造業）
出荷量の減少が続くため（その他製造業）
平成29年度の反動減となる（その他製造業）
世界の貿易摩擦、原油高などの不安要素から（その他製造業）
前期は大雪により、着工、完了等が大幅に遅れたため。又今期に入り受注が大きく好転して来ている（建設業）
小松市発注工事の増加、民間施設の設備投資の増大（建設業）
官公庁工事の発注状況に特に変わりなし（建設業）
平成30年度の公共予算減少、民間設備投資は維持（建設業）
シーズンの第1第2四半期は売上が低いのが常態（建設業）
特に変わらず（建設業）
1～3月は大雪の影響により工事が進まなかった（建設業）
次期の見通しが見つからない（建設業）
人手不足、生コン不足、ダンプも不足、その他も（建設業）
仕事があっても人手が足りない。受注額が変わらずコストが下がらない（建設業）
景況の落ち込みが見られず、引き続き好況感がある（運輸）
顧客ニーズに大きな変化がないため（運輸）
利益率の低下(備車費用の増加)（運輸）
新型車(クラウン)投入のため（小売業）
前期の実績との比較（小売業）
単価の低下（小売業）
需要の停滞、ビジネスモデルの再構築（小売業）
市場に良くなる感じはないが、落ちる雰囲気もない（卸売業）
カタログ通販、ネット通販、メルカリ等で、卸・小売の存在価値がすでになくなってきている (卸・小売業)
業界全体、あまりうまく回っていない（卸売業）
好景気により、高額車両の販売が増えている（サービス業）

自社、公共工事の受注増（サービス業）
わからないが6月の落ち込みはひどくて大変だった（サービス業）
販売金額の減少（サービス業）
年間において上下する事あたりまえです（サービス業）
関与先の状況によるため。事業好転企業が少ない（サービス業）
競合他社の増加（サービス業）

(1)-2 DI値

(単位:DI)

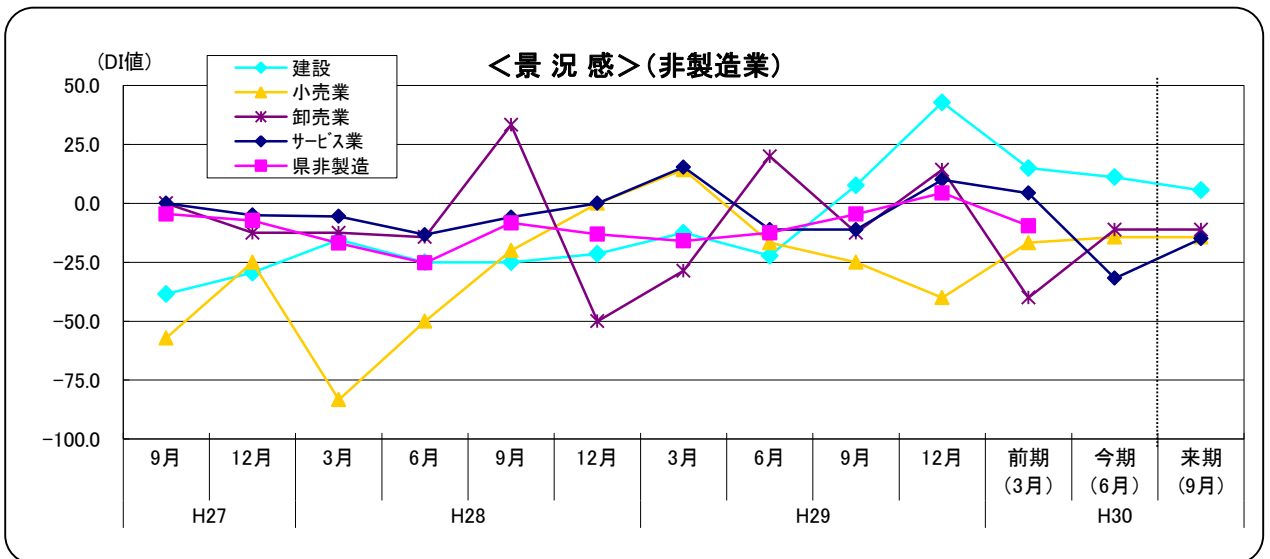
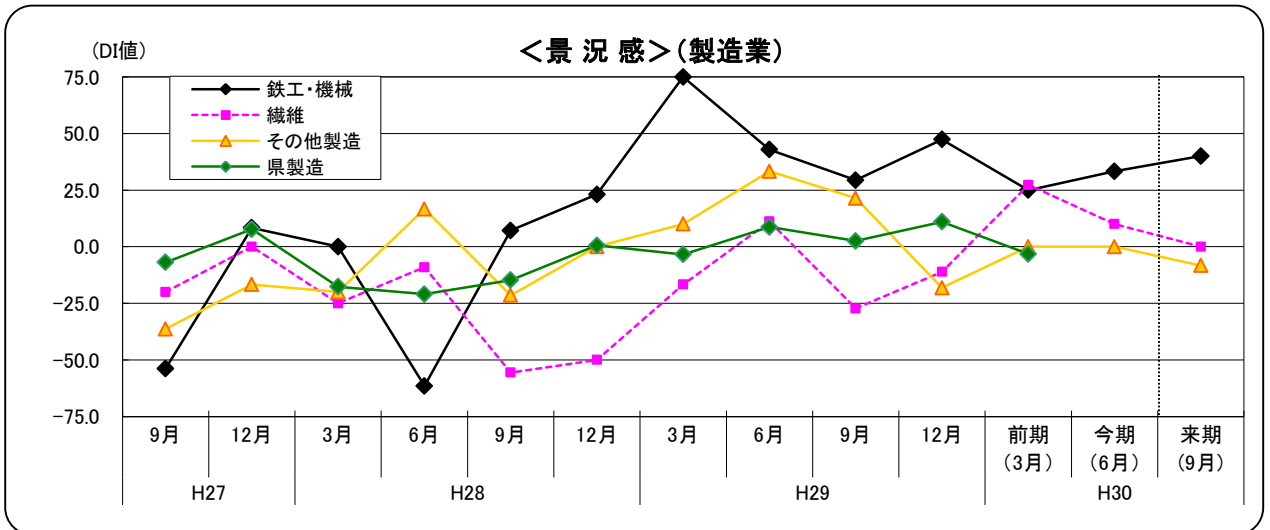
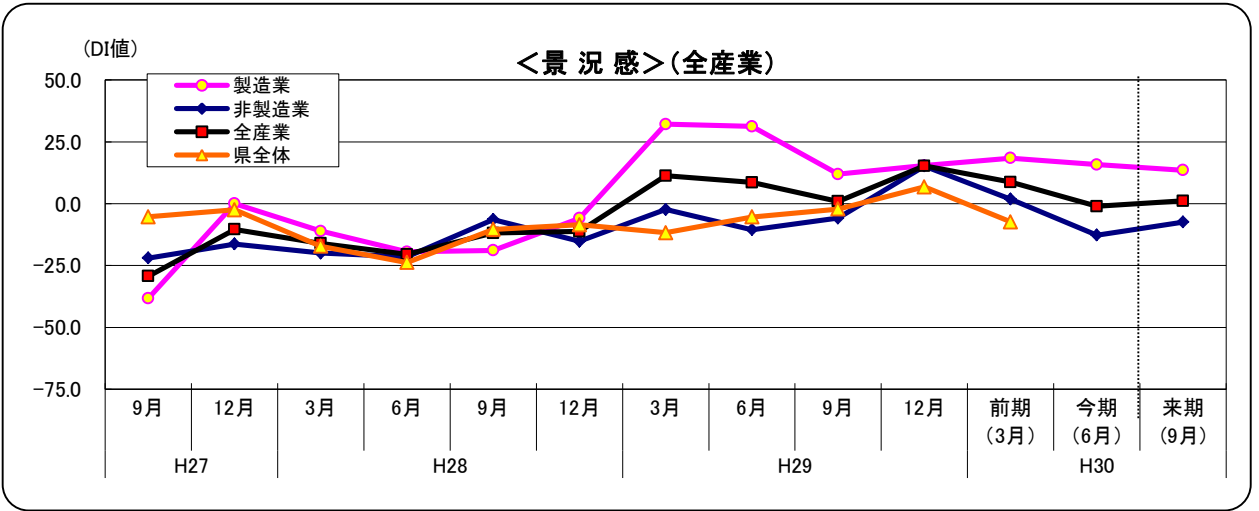
		前期	今期	来期
製造業	鉄工・機械	25.0	33.3	40.0
	繊維	27.3	10.0	0.0
	その他製造	0.0	0.0	▲ 8.3
	製造計	18.4	15.8	13.5
非製造業	建設業	15.0	11.1	5.6
	小売業	▲ 16.7	▲ 14.3	▲ 14.3
	卸売業	▲ 40.0	▲ 11.1	▲ 11.1
	サービス業(運輸含む)	4.3	▲ 31.8	▲ 15.0
	非製造計	1.9	▲ 12.5	▲ 7.4
全体		8.7	▲ 1.1	1.1
改善予測		▲ 14.1	2.2	—

※改善予測（「来期」見通しから「今期」を差し引いた値、プラスの場合は今期より来期の方が上昇するという予測）

製造業については、鉄工・機械では前期 25.0 ポイントだったが、今期は 33.3 ポイントと回復、来期は更に 40.0 ポイントと回復の見通しを示している。繊維においては前期が 27.3 ポイントであったが、今期は 10.0 ポイントと悪化となり、来期は更に 0.0 ポイントと悪化傾向を示している。その他製造業においては、前期 0.0 ポイントから今期は 0.0 ポイント現状維持となり、来期はやや悪化の見込みであることが伺える。

非製造業については、建設業が前期 15.0 ポイントから今期 11.1 ポイントとやや悪化傾向であり、来期は 5.6 ポイントと更に悪化予測が伺える。小売については今期▲14.3 ポイントと前期よりやや回復傾向であったが、来期は現状維持の見通し、卸売は前期よりやや回復傾向となっているが、来期も現状維持の見込み、サービス業は▲31.8 ポイントと悪化傾向となり、来期はやや回復の見込みであり、まだ総じて依然厳しい状況が続いていることが伺える。

(1)-3 年代別の推移



(単位:DI)

区分	今期(H30.6)			来期(H30.9)			備考
	小松地区	北陸三県	全国	小松地区	北陸三県	全国	
製造業	15.8	23	17	↘ 13.5	↘ 19	↘ 15	38社
非製造業	▲12.5	9	15	↗ ▲7.4	↘ 4	↘ 11	56社
全体	▲1.1	15	16	↗ 1.1	↘ 10	↘ 13	94社

※北陸三県並びに全国の数値は 日銀金沢支店・短観(全国企業短期経済観測調査)より

## (2) - (5) 売上高、売上単価、資金繰り、採算性(経常利益) DI一覧表

今期(H30年度第1四半期)の状況

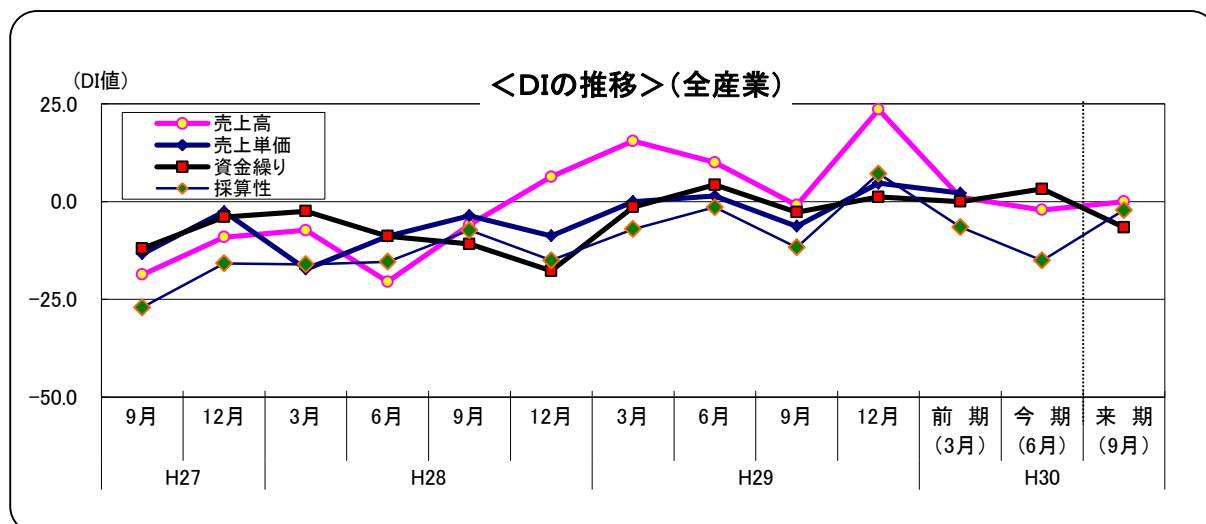
(単位:DI)

	売上高	売上単価	資金繰り	採算性
鉄工・機械	13.3	6.7	26.7	6.7
繊維	20.0	20.0	▲ 10.0	▲ 20.0
その他製造	7.7	▲ 7.7	▲ 7.7	▲ 23.1
建設業	▲ 5.6	16.7	11.1	▲ 5.6
小売業	0.0	▲ 14.3	0.0	▲ 42.9
卸売業	11.1	▲ 11.1	0.0	0.0
サービス業	▲ 31.8	0.0	▲ 4.5	▲ 27.3
全体	▲ 2.1	3.2	3.2	▲ 14.9

来期(H30年度第2四半期)の見通

(単位:DI)

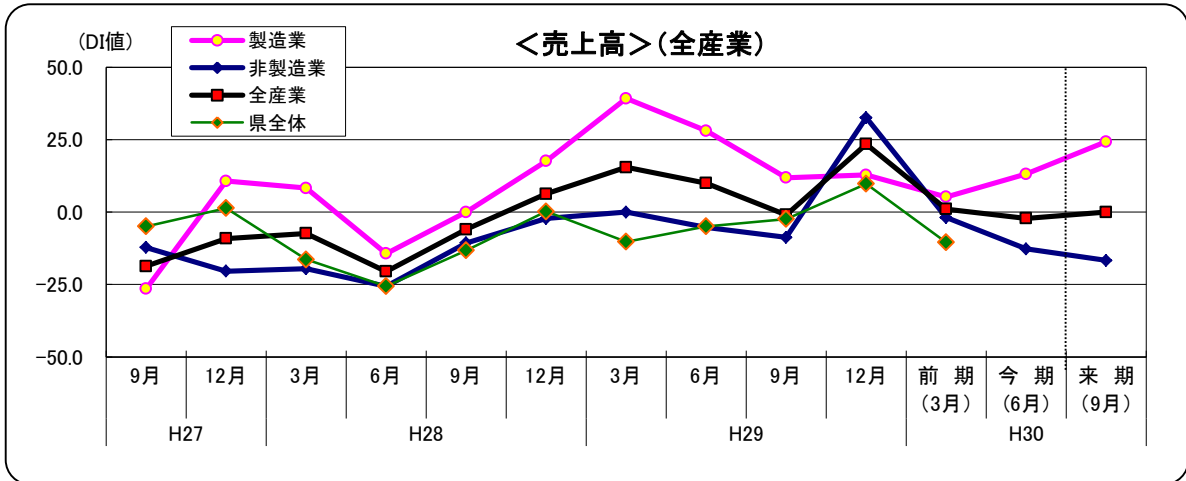
業種	売上高	売上単価	資金繰り	採算性
鉄工・機械	53.3	6.7	13.3	40.0
繊維	10.0	30.0	10.0	10.0
その他製造	0.0	8.3	▲ 16.7	▲ 16.7
建設業	▲ 16.7	16.7	▲ 11.1	0.0
小売業	▲ 42.9	▲ 14.3	▲ 14.3	▲ 28.6
卸売業	0.0	▲ 11.1	▲ 11.1	0.0
サービス業	▲ 15.0	▲ 20.0	▲ 15.0	▲ 25.0
全体	0.0	2.2	▲ 6.6	▲ 2.2
改善予測 (今回)	2.1	▲ 1.0	▲ 9.8	12.7
改善予測 (H30.3)	2.2	▲ 4.4	▲ 4.3	▲ 2.2
改善予測 (H29.12)	▲ 8.9	▲ 1.0	▲ 6.1	▲ 9.6



(2) 売上高

(単位:DI)

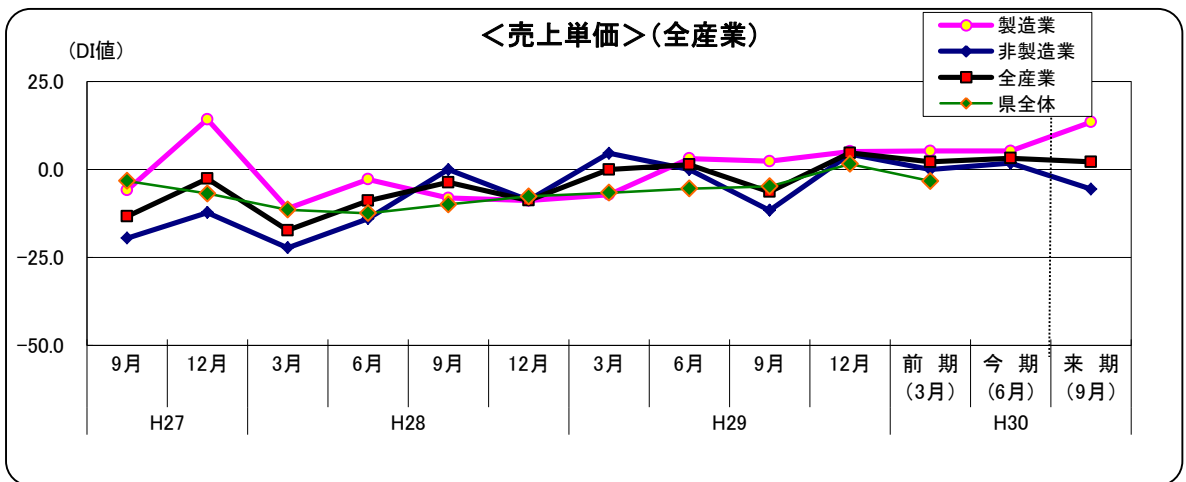
	製造業				非製造業					全産業
	鉄工・機械	繊維	その他	製造計	建設業	小売業	卸売業	サービス業	非製造計	
来期	53.3	10.0	0.0	24.3	▲ 16.7	▲ 42.9	0.0	▲ 15.0	▲ 16.7	0.0
今期	13.3	20.0	7.7	13.2	▲ 5.6	0.0	11.1	▲ 31.8	▲ 12.5	▲ 2.1
前期	6.3	9.1	0.0	5.3	0.0	▲ 16.7	0.0	0.0	▲ 1.9	1.1



(3) 売上単価

(単位:DI)

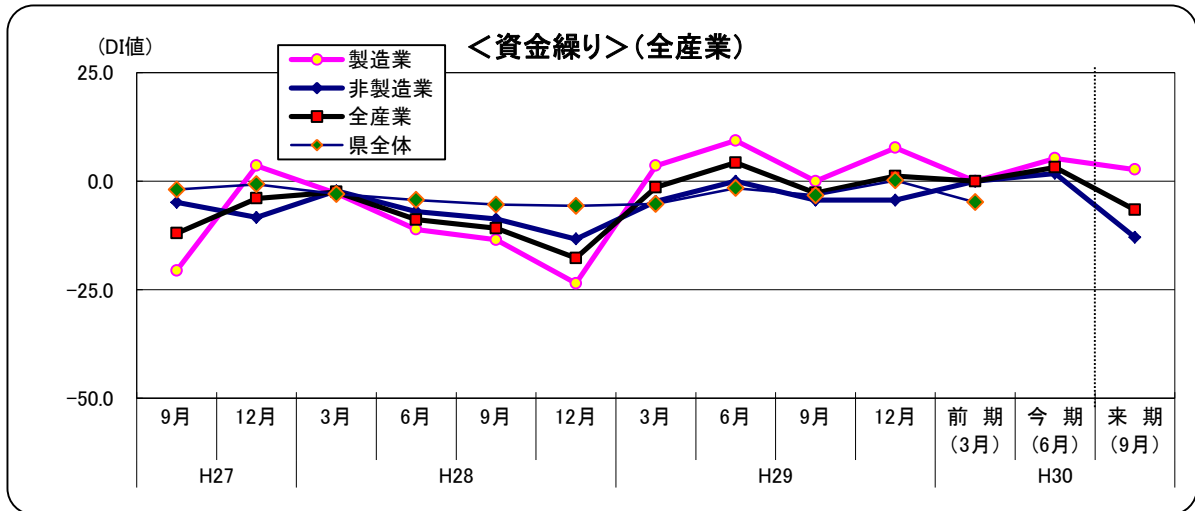
	製造業				非製造業					全産業
	鉄工・機械	繊維	その他	製造計	建設業	小売業	卸売業	サービス業	非製造計	
来期	6.7	30.0	8.3	13.5	16.7	▲ 14.3	▲ 11.1	▲ 20.0	▲ 5.6	2.2
今期	6.7	20.0	▲ 7.7	5.3	16.7	▲ 14.3	▲ 11.1	0.0	1.8	3.2
前期	6.3	18.2	▲ 9.1	5.3	5.0	0.0	20.0	▲ 8.7	0.0	2.2



(4) 資金繰り

(単位:DI)

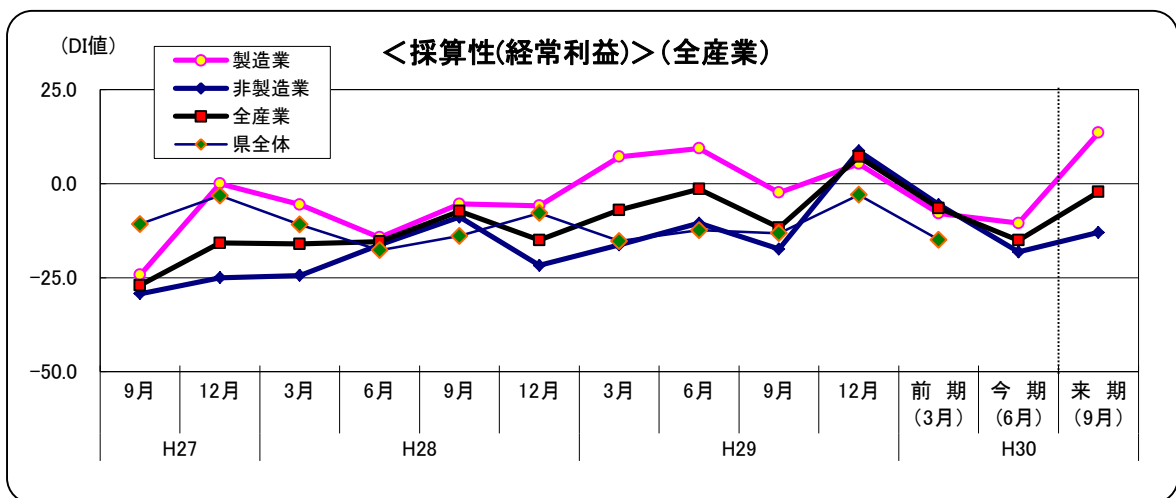
	製造業				非製造業					全産業
	鉄工・機械	繊維	その他	製造計	建設業	小売業	卸売業	サービス業	非製造計	
来期	13.3	10.0	▲ 16.7	2.7	▲ 11.1	▲ 14.3	▲ 11.1	▲ 15.0	▲ 13.0	▲ 6.6
今期	26.7	▲ 10.0	▲ 7.7	5.3	11.1	0.0	0.0	▲ 4.5	1.8	3.2
前期	18.8	▲ 9.1	▲ 18.2	0.0	▲ 5.0	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0



(5) 採算性(経常利益)

(単位:DI)

	製造業				非製造業					全産業
	鉄工・機械	繊維	その他	製造計	建設業	小売業	卸売業	サービス業	非製造計	
来期	40.0	10.0	▲ 16.7	13.5	0.0	▲ 28.6	0.0	▲ 25.0	▲ 13.0	▲ 2.2
今期	6.7	▲ 20.0	▲ 23.1	▲ 10.5	▲ 5.6	▲ 42.9	0.0	▲ 27.3	▲ 17.9	▲ 14.9
前期	▲ 6.3	0.0	▲ 18.2	▲ 7.9	▲ 15.0	0.0	0.0	0.0	▲ 5.6	▲ 6.5

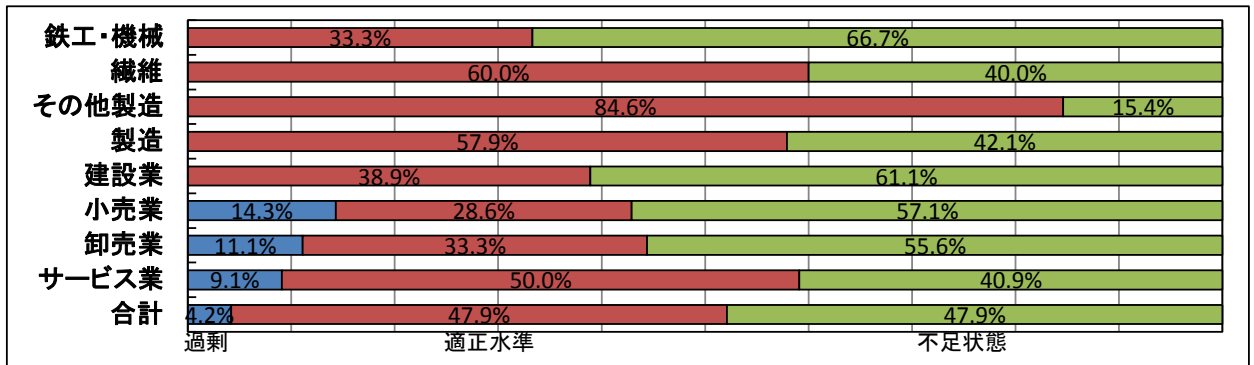




## 雇用情勢

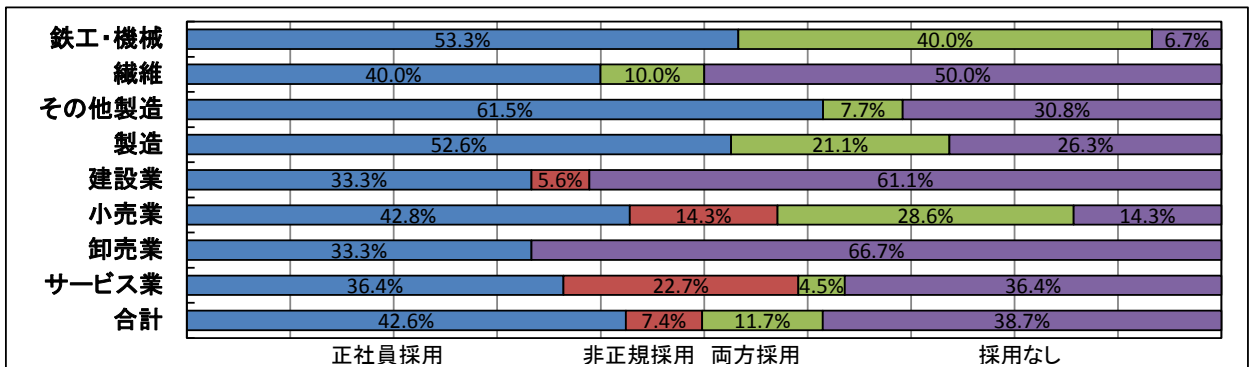
### 1. 現在の雇用状況について

	過剰状態	適正水準	不足状態
鉄工・機械	0.0%	33.3%	66.7%
繊維	0.0%	60.0%	40.0%
その他製造	0.0%	84.6%	15.4%
製造業	0.0%	57.9%	42.1%
建設業	0.0%	38.9%	61.1%
小売業	14.3%	28.6%	57.1%
卸売業	11.1%	33.3%	55.6%
サービス業(運輸含む)	9.1%	50.0%	40.9%
全体	4.2%	47.9%	47.9%



### 2. 今期(平成30年4月以降)の社員の採用

	正規社員採用	非正規社員採用	両方を採用	両方の採用なし
鉄工・機械	53.3%	0.0%	40.0%	6.7%
繊維	40.0%	0.0%	10.0%	50.0%
その他製造	61.5%	0.0%	7.7%	30.8%
製造業	52.6%	0.0%	21.1%	26.3%
建設業	33.3%	5.6%	0.0%	61.1%
小売業	42.8%	14.3%	28.6%	14.3%
卸売業	33.3%	0.0%	0.0%	66.7%
サービス業(運輸含む)	36.4%	22.7%	4.5%	36.4%
全体	42.6%	7.4%	11.7%	38.7%



Q「雇用情勢」の項目における「選定理由」に関する意見

1. 正規社員を採用

定期採用、欠員補充（鉄工・機械）
働き方改革が声高ら言われる中、早目に手を打つため（鉄工・機械）
生産、出荷増のため（鉄工・機械）
新高卒者、男子1名女子1名採用した（鉄工・機械）
売上増に対する人員不足（鉄工・機械）
まだまだ人手不足状態である（鉄工・機械）
営業職、開発職が常に不足している（繊維）
求人難である（繊維）
製造部門の職人の高齢化で、若い人の養成が急務となっている（その他製造業）
離職者もいるため（その他製造業）
人員構成を維持するため（その他製造業）
厳しい人手不足感（その他製造業）
高卒者2名新規採用（建設業）
将来を考えた人材投資（建設業）
新卒者が採れない（建設業）
慢性的な人材不足、打開策が全くみえない（運輸）
欠員の人材確保（運輸）
需要が好調であり、十分な対応体制が必要（運輸）
人はいるが当社に合った人はいない（小売業）
辞めた社員の補充（卸売業）
毎年定期採用をはかっている。男性の採用については予定3人に対し、1人しか採用できなかった（卸売業）
増員（サービス業）
不足した場合に中途採用をしているため（サービス業）

2. 非正規社員を採用

いつもアルバイトは募集している（サービス業）
入れ替え（サービス業）

正規社員、非正規社員の両方を採用

中途採用人脈増員中（鉄工・機械）
(適正)必要人員確保（鉄工・機械）
新入社員は毎年採用、補充で派遣・パートを採用。多忙により人材不足のため（鉄工・機械）
機械増設のため（繊維）
欠員補充、非正規社員の正規社員化（その他製造業）

3. どちらも採用しなかった

人数的には適正（その他製造業）(サービス業)
職安、その他パートでも応募者がいない（建設業）
求人は常に出しているが当社には来ない。昨年は3名入ったが3名退職。実態は採用しなかったのではなく、求人希望者が来ず採用できなかったである（建設業）
募集しても応募がない（建設業）
人手不足だが、社員が集まらない（卸売業）




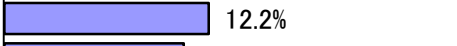
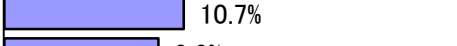
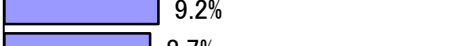
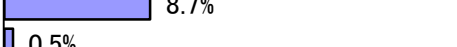


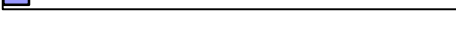
募集中（卸売業）
賃金の高騰（卸売業）

### 雇用全般に関する意見

外国人の採用ですが、3年間で帰国、次の採用者を決めてあるのに、国の都合で2～3カ月遅れるので大変困っている。会議所として、何とかしてほしい（繊維）
正社員を雇うも3日で退職。非正規(派遣)も約1カ月間で2名退職と続かない。ハローワークより紹介もないので、現職でフォローするしかない。働き方改革が施行されたら、死活問題となる。せめて人員をローテーションで月管理の残業をできるようにされたし（鉄工・機械）

### 今期(第1四半期)直面している経営上の問題点(複数回答可)

	鉄工・機械	繊維	その他	建設業	小売業	卸売業	サービス業
競争の激化	6.3%	0.0%	5.3%	5.1%	18.2%	15.8%	12.2%
仕入単価の上昇	12.5%	33.3%	31.5%	15.4%	18.2%	10.5%	12.2%
経費の増加	18.8%	16.7%	10.5%	18.0%	9.0%	21.1%	17.1%
販売単価の低下・上昇難	9.4%	8.3%	15.8%	5.1%	18.2%	10.5%	12.2%
金利負担の増加	3.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
事業資金の借入難	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.4%
需要の停滞、売上の減少	9.4%	16.7%	15.8%	5.1%	18.2%	5.3%	17.1%
従業員の確保難	28.0%	12.5%	15.8%	33.4%	18.2%	31.5%	14.6%
後継者の育成・確保	9.4%	12.5%	5.3%	12.8%	0.0%	5.3%	12.2%
その他	3.1%	0.0%	0.0%	5.1%	0.0%	0.0%	0.0%

従業員の確保難	44社	22.5%	
仕入単価の上昇	35社	17.9%	
経費の増加	32社	16.3%	
需要の停滞、売上の減少	24社	12.2%	
販売単価の低下・上昇難	21社	10.7%	
後継者の育成・確保	18社	9.2%	
競争の激化	17社	8.7%	
金利負担の増加	1社	0.5%	
事業資金の借入難	1社	0.5%	
その他	3社	1.5%	

### Q「経営上の問題点」の項目における「10. その他」の意見

間接業務の増加（鉄工・機械）
職人不足が心配（建設業）
働き方改革（建設業）

Q具体的な問題点

人が採用できない為に、新規の仕事を断らなくてはならない（鉄工・機械）
退職者の補充（鉄工・機械）
客先からの受注頻度(日々発注)が増え、数量もバラツクため、間接業務増（鉄工・機械）
社員の確保難で今後さらに賃金が上がっていく。そうすると世界的に競争力がなくなる (鉄工・機械)
昨年8月以降観光バス需要の低下（鉄工・機械）
製造経費となるLPG、電力、運賃の高騰により、利益の圧迫。単価の見直しが必要 (鉄工・機械)
昨年8月以降観光バス需要の低下（鉄工・機械）
派遣社員単価の増（鉄工・機械）
原材料の上昇（繊維）
H29年度に対する反動減、需要の停滞（その他製造業）
業界は構造的に低迷しているため（その他製造業）
職人の若返りが急務（その他製造業）
人手不足（その他製造業）
原油関連原材料の値上げ（その他製造業）
技術者不足（建設業）
下請的業種で価格の上昇が難しい（建設業）
従業員の不足（建設業）
若年者不足（建設業）
新幹線工事の影響で、人手不足、生コン、ダンプ不足（建設業）
受注額が変わらず、コストが下がらない（建設業）
従業員の確保が難しい中、追い打ちをかけるように働き方改革法案が通り、残業時間の規制が益々厳しくなり、零細企業には厳しい環境となった（建設業）
社員の意識を含めた働き方改革の進め方がわからない（建設業）
燃料の高騰（運輸）
軽油単価、電力料金の高騰（運輸）
人材費用のUP（小売業）
人員の不足による定休日の増加に伴い、売上高が減少している（卸・小売業）
従業員の高齢化（卸売業）
人員増、賃金上昇、設備投資等、固定費が膨らんでいる（卸売業）
今までと同じ様に低価格が普通になっている（サービス業）
ビールも上がり食品も上がっている（サービス業）
高齢化による廃業、仕事量の変化が少ない事から単価上昇等が難しい。また関与先の自計他による関与形態の変化のため単価が上がらない（サービス業）

人材の定着・育成について(複数回答可)

	鉄工・機械	繊維	その他	建設業	小売業	卸売業	サービス業
賃金の向上(基本給・ボーナス)	17.8%	33.3%	23.5%	23.1%	35.3%	27.8%	33.3%
時間外労働の削減・休暇制度の利用促進	13.3%	18.5%	11.8%	15.4%	17.6%	27.8%	21.2%
能力や適正に応じた昇給・昇進	15.6%	22.2%	14.7%	10.3%	5.9%	11.1%	6.1%
福利厚生制度の充実	11.1%	7.4%	14.7%	5.1%	0.0%	5.6%	9.1%
成果や業務内容に応じた人事評価	17.8%	7.4%	8.8%	17.9%	11.8%	11.1%	6.1%
研修・能力開発・資格取得支援の充実	6.7%	3.7%	11.8%	10.3%	11.8%	5.6%	6.1%
職場環境・人間関係への配慮	17.8%	7.4%	11.8%	17.9%	17.6%	11.1%	12.1%
その他	0.0%	0.0%	2.9%	0.0%	0.0%	0.0%	6.1%

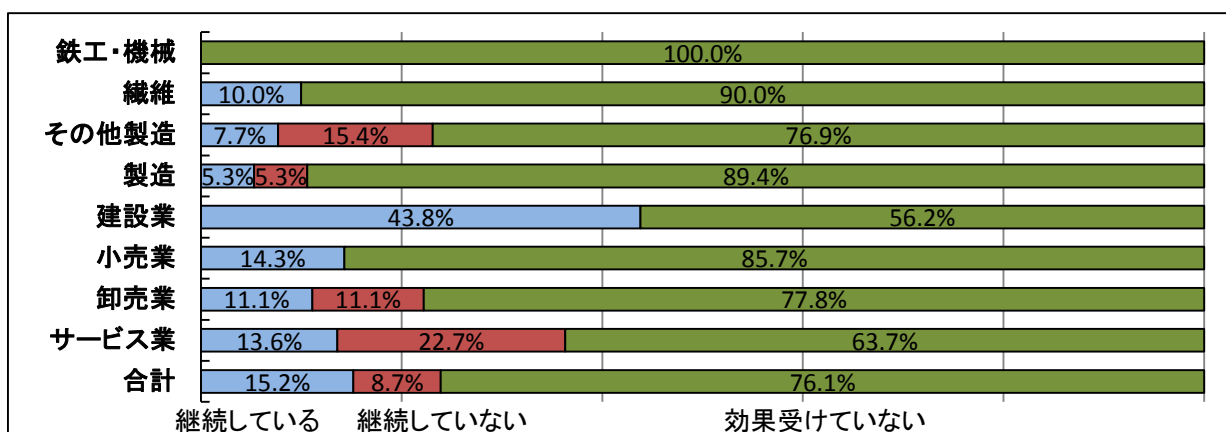
賃金の向上(基本給・ボーナス)	56社	26.2%	
時間外労働の削減・休暇制度の利用促進	36社	16.9%	
職場環境・人間関係への配慮	30社	14.1%	
能力や適正に応じた昇給・昇進	27社	12.7%	
成果や業務内容に応じた人事評価	26社	12.2%	
福利厚生制度の充実	18社	8.5%	
研修・能力開発・資格取得支援の充実	17社	8.0%	
その他	3社	1.4%	

Q「人材の定着・育成」の項目における「8. その他」の意見

中小企業にとっての有効な“働き方改革”を研究すべきである(その他製造業)
わからない(その他製造業)
色々試しているが、何が有効なのか…(運輸)

北陸新幹線開業に伴う影響について(追跡調査)

	継続している	継続していない	効果なし
鉄工・機械	0.0%	0.0%	100.0%
繊維	10.0%	0.0%	90.0%
その他製造	7.7%	15.4%	76.9%
製造業	5.3%	5.3%	89.4%
建設業	43.8%	0.0%	56.2%
小売業	14.3%	0.0%	85.7%
卸売業	11.1%	11.1%	77.8%
サービス業(運輸含む)	13.6%	22.7%	63.7%
全体	15.2%	8.7%	76.1%



Q「北陸新幹線開業の影響」の項目における具体的な意見

1. 継続している

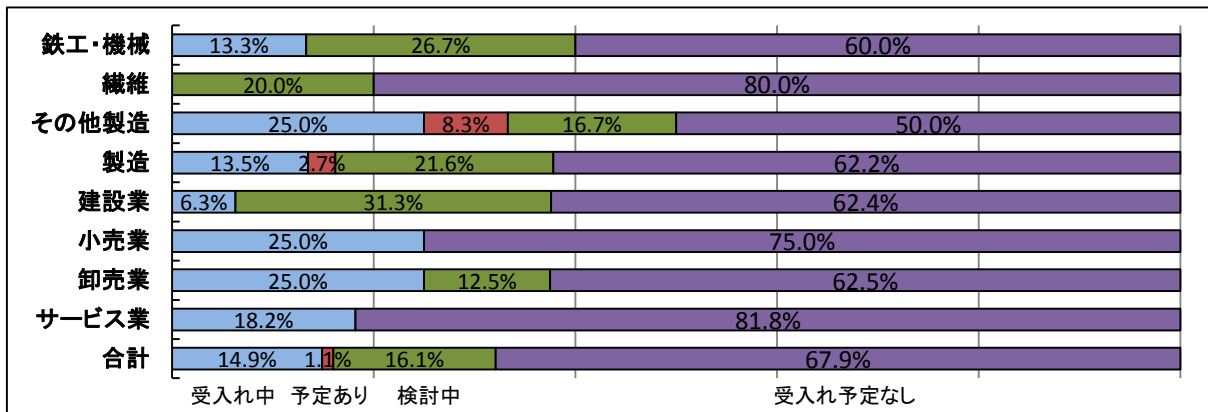
東京で夜、酒宴があっても帰れる（繊維）
金沢での売れ行きは好調のようだ（その他製造業）
金沢中心に物件が出ている（建設業）
少しだが取引があるので（建設業）
新幹線工事に社員の半分行っている（建設業）
延伸工事の受注（建設業）
下請工事(少額)がある（建設業）
県外の人への出入が多い（建設業）
金沢市内中心部ではインバウンド需要と合わせて堅調に推移している（運輸）
金沢駅前の集客力UPになっている（小売業）
当初よりは減少だが、他県からの入り込みがある程度続いている（サービス業）
建設関係の好景気（サービス業）

2. 継続していない

年を追うごとに減少（運輸）
小松までには時間がかかる。金目的大会を小松でも開催してほしい（サービス業）
利用客の減少に一定の下げ止まりが見られる（サービス業）
もともと新幹線で客は来ていない（サービス業）
もともとあまり影響がなかった（卸・小売業）

インターンシップ受け入れについて

	受入れ中	予定あり	検討中	予定なし
鉄工・機械	13.3%	0.0%	26.7%	60.0%
繊維	0.0%	0.0%	20.0%	80.0%
その他製造	25.0%	8.3%	16.7%	50.0%
製造業	13.5%	2.7%	21.6%	62.2%
建設業	6.3%	0.0%	31.3%	62.4%
小売業	25.0%	0.0%	0.0%	75.0%
卸売業	25.0%	0.0%	12.5%	62.5%
サービス業(運輸含む)	18.2%	0.0%	0.0%	81.8%
全体	14.9%	1.1%	16.1%	67.9%



### 1. 現在受け入れしている

先日も高校より依頼があった（機械・鉄工）
小松工業高校 3名 寺井高校 2名（その他製造業）
理系学生を対象とした1日インターシップを8、9月に実施予定。体験内容は「バス開発設計業務」で、マイナビ2020にて募集中（その他製造業）
8月に2名受入予定（建設業）
輪島の航空大学校の学生の受入れ（運輸）
複数の大学から受けいれている（卸売業）
採用につなげる考え方はなかったが、今後は来シーズンの対象者としてフォローする（卸売業）
本部が対応している（サービス業）

### 2. 今期独自に受け入れを予定している

3日間コースを実施する予定（その他製造業）
-----------------------

### 3. 受け入れを検討している

小松工業へ連絡済(2名程度、10月)（鉄工・機械）
高校生のインターンシップは受入れ継続（鉄工・機械）
技術系の大学生のインターンシップを受け入れたい（繊維）
本年9月以降なら検討したい（その他製造業）
小松工業からの依頼を受けている。大学は要請があれば検討（建設業）

### 4. 受け入れる予定はない

大学生の就業を考えていない（卸売業）
--------------------

### ■ 「景気全般」の項目における意見

景気に影響されない企業体質づくりが重要（鉄工・機械）
まだしばらくは好景気が続くと思う（鉄工・機械）
現役世代の生活が厳しいため、高齢者は自分の生活を守るため、金を蓄えることに。中間層の所得向上、消費拡大がカギに（繊維）
無地物は景気が良いが、ジャカード物はリーマンショック以来の大不景気（繊維）
内部の設備等も含めて、コストの削減に努力して対応している（その他製造業）
比較的安定している（その他製造業）
現在の安倍政権の経済政策が継続されれば、そんなに悪い状態は生まれまいだろうと思う (その他製造業)

種々の経済的条件が一方向にブレ続け易いのがこわい（その他製造業）
人材不足、後継者不足などでの10年後の姿が想定出来ない（建設業）
当面は人材以外の面で景気に対する不安材料は特に見当たらないが、その後1～2年先について不安感が否めない（建設業）
安定受注の見込みが望めない不安（建設業）
北國新聞にも記事があったが、コンクリート不足が心配（建設業）
比較的に好調ではあるが、トランプ政権次第か（運輸）
商業関係の景気悪化が常態化している（卸・小売業）
金沢中心のミニバブルが下り坂にかかっている気がする（卸売業）
売上は新年度5～6月と前年を上回っているが、客の忙しさ程モノが動いていない感じがする (卸売業)
当業界では景況感は少し良いが予断を許さない（サービス業）
従業員採用の際、時間単価が地方にとって高すぎる。全ての産業に影響する（サービス業）
悪くないと思うが、自社に恩恵があるとは思えない（サービス業）

■ 商工会議所へのご意見・ご要望などがございましたら、お聞かせ下さい。

①人、物、金の他地域への流出防止対策（鉄工・機械）
②新電力の説明会をして欲しい（機械・鉄工）
③補助金の取りやすさ、充実をお願いする（繊維）
④商業政策（卸・小売業）

**会議所コメント：**

- ① ④本所の関係委員会・部会等での議論を踏まえ、行政及び関係機関への地域・中小企業の発展を目的とした適切な要望・提言とともに各種事業を行ってまいります。
- ② ③本所では、各種セミナーとともに専門家派遣による企業ドック相談を実施しております。また、よろず支援拠点小松サテライトも常設されており、会員事業所に広くご活用いただけるよう努めて参ります。